

[畜産部門 令和6年度 参考となる研究成果]

事項名	青森シャモロック種鶏への低ME低CP飼料の目安給与量		
ねらい	青森シャモロック種鶏の飼育マニュアルは長らく改定されておらず、現在の青森シャモロック種鶏の能力に合ったものとは言い難い。そこで、効率的な商業種鶏の生産のために新たな飼料給与体系を検討し、低ME低CP飼料を給与する場合の目安給与量を決定したので、参考に供する。		
内容	<p>1 低ME低CP飼料の概要と給与方法（表1） 畜産研究所で使用した低ME低CP飼料は育成期でME:2,650kcal/kg、CP:14.5%、成鶏期でME:2,750kcal/kg、CP:15.0%であり、一般にブロイラー種鶏用配合飼料と呼ばれるものである。育すう期（餌付け～4週齢）、育成期（5-12週齢）、成鶏期（13週齢以降）の3段階で飼料の切り替えを行う。</p> <p>2 低ME低CP飼料給与時の目安給与量（図1） 低ME低CP飼料を使用する場合、厳しい制限給餌は必要ないが、過肥を抑制するために図1の目安給与量を参考にして給与する。</p> <p>3 体重の推移（図2） 体重は初産期に当たる16週齢以降、有意な差がみられ、目安給与量に沿った給餌をした試験区では最終的に3.4kg、飽食給与した対照区では3.7kgとなった。</p> <p>4 産卵成績（表2） 期間産卵率は試験区で69.6%、対照区で66.8%と試験区で高い傾向となった。正常卵率は試験区で有意に高くなり、軟卵率及び破卵率は試験区で有意に低下し、試験区で種卵として供用可能な種卵が増加した。</p> <p>5 生産性（表3） 飼料摂取量は試験区でほぼ目安給与量どおりに摂取し、試験期間中の総飼料摂取量は試験区で1,365.7kg、対照区で1,555.3kgであった。 飼料要求率は試験区で3.4、対照区で3.8と試験区で優れ、正常卵個数は264個増加した。 種卵1個当たりの飼料費は試験区で16.3円、対照区18.5円、ひな1羽当たりの飼料費は試験区で18.8円、対照区で24.0円となり、ともに試験区で飼料費が低下した。 生存率はほぼ同等であった。</p>		
期待される効果	低ME低CP飼料を使用する場合、目安給与量に沿って給餌することで、飼料費を抑えながらより効率的に青森シャモロック商業種鶏ひなを生産することができる。		
利用上の注意事項	目安給与量であるので、実際の種鶏の飼育規模や飼育する季節、鶏の状態を考慮して柔軟に対応すること。		
問合せ先（電話番号）	畜産研究所 中小家畜・シャモロック部 (0175-64-2790)	対象地域 及び経営体	青森シャモロック種鶏場
発表文献等	「青森シャモロック種鶏」飼育管理マニュアル（令和5年7月28日一部改正）に目安給与量を記載		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 低ME低CP飼料の概要（令和5年 青森畜産研）

ステージ	週齢	栄養価
育すう期	餌付け～4週齢	CP:21.0%, ME:2,950kcal/kg
育成期	5-12週齢	CP:14.5%, ME:2,650kcal/kg
成鶏期	13週齢以降～	CP:15.0%, ME:2,750kcal/kg

(注) 飼料メーカーにより値は前後するため参考とすること。

(g/日/羽)

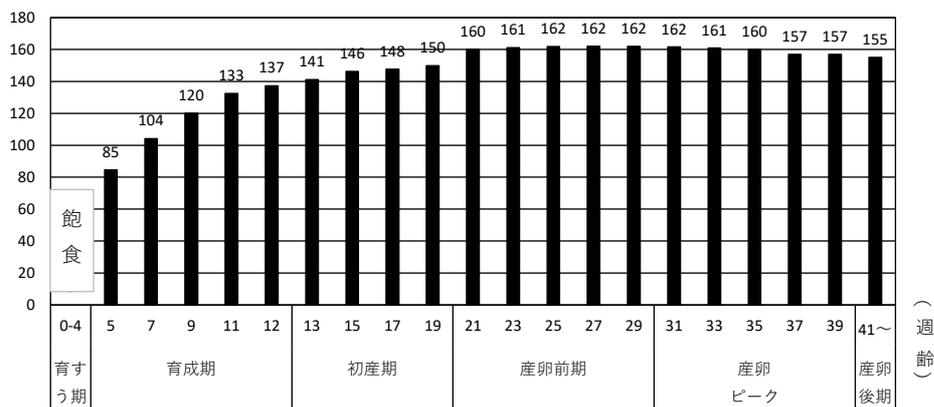


図1 低ME低CP飼料使用時の目安給与量（令和5年 青森畜産研）

(kg)

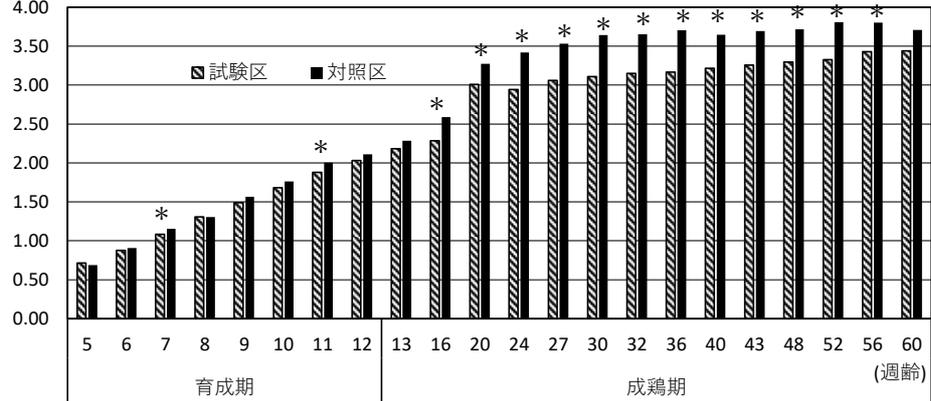


図2 体重の推移（令和5年 青森畜産研）

表2 産卵成績（令和5年 青森畜産研）

項目	単位	試験区	対照区	有意差
期間産卵率	%	69.6	66.8	NS
正常卵率	%	92.1	85.6	*
軟卵率	%	4.6	8.0	*
破卵率	%	3.3	6.4	*
平均初産日齢 ^{*1}	日齢	131.3	132.5	NS
50%産卵 ^{*2} 到達週齢	週齢	20.8	21.0	NS

*P<0.05

(注) 1 鶏群の平均初産日齢

2 1週間のうち正常卵を4個以上産卵した週齢

表3 生産性（令和5年 青森畜産研）

項目	単位	試験区	対照区
飼料摂取量	kg	1,365.7	1,555.3
正常卵個数	個	7,594.0	7,330.0
産卵重	kg	406.8	409.2
飼料要求率		3.4	3.8
種卵1個当たりの飼料費 ^(注1)	円	16.3	18.5
ひな1羽当たりの飼料費 ^(注2)	円	18.8	24.0
生存率	%	98.3	97.8

(注) 1 各試験区とも群での成績

2 配合飼料価格88.3円/kg、種卵重55gで計算

3 産卵ピーク時の受精率(試験区93.9%、対照区90.4%)、ふ化率(試験区92.5%、対照区85.1%)で計算